

レジ袋無料配布の中止を求める県民アピール

私たちは長年、レジ袋の削減を通じて県民の生活全般に3Rを広げ、地球の温暖化を防止するために、買物袋（マイバック）持参運動を県下各地で進めてきました。

平成20年からは、県・事業者・消費者団体が協力して「レジ袋削減県民スクラム運動」が始まりました。これによってそれまで20%台だったマイバック持参率が50%台に上昇し、県民の意識も向上しました。しかしながら、平成22年度以降、持参率は50%前後で頭打ちになり、当初目標とした60%を達成できていません。

この間、全国の12県が「レジ袋の無料配布中止」を実施し、いずれの県でも80%~90%の高い持参率になっています。また、ごく最近これまでの持参者への値引きサービスをやめて無料配布中止に踏み切った大手スーパーもあります。

こうした中で、長野県は9月14日に長野県全域での「レジ袋無料配布中止」を提唱しました。私たちは、この提唱を積極的に支持し、来春から取り組みが開始できるよう事業者、県民の皆様の理解を求めます。

多くの事業者が賛同する一方で、一部には「お客様への負担が増える」「レジ袋は万引き防止に役立っている」「レジ袋は家庭で有効に活用されている」などを理由に無料配布中止に反対する事業者もいて、足並みが揃わないことが懸念されています。反対の理由も理解できますが、努力をすれば克服できると考えます。「信州の豊かな自然環境を守り、地球の温暖化を防止する」という取り組みの意義をご理解いただき、すべての事業者に足並みを揃えて参加いただくことを強くお願いします。また、県民の皆さんに取り組みに賛同、協力する事業者を応援し、取り組みを成功させていただくことをお願いします。

平成24年12月18日

呼びかけ人（順不同）

鶴飼照喜（長野県消費者団体連絡協議会）

中條智子（長野県連合婦人会）

我妻やす子（長野県消費者の会連絡会）

今村良子（南信州レジ袋削減推進協議会）

笠井雪子（千曲川流域レジ袋削減推進協議会）

瀧澤和子（松本市買物袋持参市民の会）

奥原久子（諏訪市エコプロジェクト）

渡辺ヒデ子（NPO法人みどりの市民）

このアピールにご賛同いただける皆様は、以下にお名前とご住所を御記入ください。

お名前・団体名	ご住所・連絡先

（賛同は個人でも団体でも構いません。）

団体の場合は、団体名、代表者名・連絡先・人数をお書きください。